

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 鶴山記念会
施設名	りんごの森保育園
報告者（役職）	太田 マリ子（園長）
住所・連絡先	岩手県滝沢市鶉飼細谷地 146-45
	☎ 019-687-3000
	E-mail k-ringo@mocha.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

運動遊びを通して、頑張る気持ちや達成感などの心を育む

○主な助成備品

巧技台セット・収納台・平均台

1. 保育計画策定の目的

当園は、平成26年9月1日、岩手県滝沢市に開園いたしました。滝沢市の中でも盛岡市に隣接する立地条件からベッタウンとして宅地開発が進んでおり、若い世代を中心とした世帯が多い地域にあります。そのため、待機児童解消につながる保育園として、地域の期待を受けて開園致しました。特に3歳未満児は、開園当初より定員を大きく上回る入園希望があり、保育士を増員するなどして対応し、定員36名の所に59名の入園を受け入れ、地域の待機児童の解消に大きく貢献しております。

開園したばかりで、大型備品等を購入する予算がなく、運動用具については、運動マット・鉄棒（屋外）・縄跳びと僅かです。子どもたちの経験の幅を広げ、それぞれの年齢に合った運動機能の発達を促していくために、巧技台を使った運動遊びを取り入れ、年齢や運動能力に応じて段階を踏みながら、幼児期に育つ平衡感覚や敏捷性、跳躍力、懸垂力などの身体機能を高める事、活動を通して協調性や競争心、達成感、教えあうなどの思いやりなど心を育てる保育が実現できると考えました。

2. 具体的な実施内容

年齢	具体的な実施内容
1, 2 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・すべり台などで傾斜を作り、上ったり滑ったりを楽しみながら足腰を鍛える ・補助してもらいながら、平均台や太鼓橋、はしごを渡りバランス感覚を養う ・箱を重ねて高い台を作り、よじ登ったり両足でジャンプし飛び降りる ・鉄棒にぶら下がり、握る力や姿勢を保つ力をつける 
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・平均台や太鼓橋、はしごを渡り、バランス感覚を養い姿勢を保つ力をつける ・鉄棒をしっかり握ってぶら下がり、全身の筋力をつける ・跳び箱に乗って飛びおりたりしながら跳び箱に慣れる ・異年齢で一緒に遊ぶことで挑戦しようという気持ちで意欲的に取り組む 
4, 5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・太鼓橋やはしご等、自分たちで組み合わせを工夫し、見通しを持っていろいろな運動をする ・はしごや平均台を斜めや水平にセットし、四つん這いで渡ったり、手を離して渡ったりして、バランス感覚を養う ・鉄棒で前回りや逆上がりをしたり、支持姿勢をとり全身の筋力をつける ・跳び箱の開脚跳びに挑戦し、跳躍力や瞬発力を養う 

3. その成果と評価

年 齢	成 果 と 評 価
1 歳児	個々の発達に合わせながら無理なく巧技台を組み合わせ、繰り返し遊ぶ事で、自然に出来るようになり、諦めずに挑戦したりと体だけでなく気持ちの成長にも繋がっている。難しい事にも楽しみながら取り組めるようになり、出来たという喜びや達成感が感じられるようになってきている。
2 歳児	はしごを渡る際に高さがあると怖がって渡れない子もいたが、渡る経験を重ねることで、バランスをとって渡ろうとする姿が見られる。職員の支えが必要だった子も感覚を少しずつ覚えながら、一人で登ったり渡ったりが出来るようになった。また、平均台は設置の仕方を変えることにより、渡り方を子どもなりに考えて工夫したり、状況を判断し、順番を守って進んでいくことで大きなトラブルやケガもなく遊ぶ姿がみられた。 鉄棒にぶら下がって遊ぶ事で、握る力や体を支える力がついている。
3 歳児	太鼓橋やはしごは積極的に取り組む子が多く、手足を上手く使って渡り、中には手を使わずにバランスをとって渡る子もみられた。平均台は1人ずつ渡るようにし、前に人がいたらどうしたらよいか考えて取り組むようにした。 跳び箱は、大きい組がやっているのを見て、挑戦しようという気持ち、頑張ろうという気持ちが持てるようになってきた。朝の自由遊びに多く取り入れることで、片付けを手伝おうとする姿も見られてきた。
4 歳児	平均台や一本橋は、落ちずに渡りきり、一つの巧技台から次の巧技台へ移る際にも慎重に動き、安全な方法を工夫して取り組んだ。何段の階段を作るか、どんな道筋にするかアイディアを出し合い、みんなで準備を行うことが出来た。また、跳び箱への興味・関心は高く、出来る子をみて意欲的に取り組みクラスの半数は跳べるようになる。
5 歳児	鉄棒はお腹で棒の上でバランスをとり、手足をしっかり伸ばせるようになる。前回はほとんどの子が出来るようになり逆上がりにも挑戦する。ステージの壁を使い、腰を持ち上げる感覚を持つことが出来る子が多くなってきている。跳び箱は低い段から徐々に段数を増やしていき、手の着き位置や跳ぶコツをつかみ、高く跳ぶことで達成感を味わっている。巧技台での運動遊びが楽しく感じられるようになり準備・片付け等を手伝えるようになってきている。

4. 今後の課題と展望

巧技台を取り入れた活動への取り組みを始めて1年余りがたち、運動の経験の幅が広がり、運動機能の発達を促していく中で、運動能力が伸びてきている。今後も少しずつ難しい事にも楽しみながら取り組み、「出来た」という喜びや達成感を感じられるように関わっていく。そのためには、年齢ごとのねらいや課題をさらに明確にすると共に、一人ひとりの成長に合わせたねらいを持ちながら、体の発達に役立てていきたい。

また、巧技台の活動で身につけてきた平衡感覚や敏捷性、支持力、跳躍力、懸垂力などの身体機能が、日常の生活や遊びでの姿勢を保つ力や怪我の予防などにも繋げることが出来るようにしていきたい。

以上